2009年度授業改善研修参加レポート　　所属（　経営学部　）　氏名　吉本　理沙

「平成 21 年度 FD 推進会議」

場所：グランドホテル浜松
期間：平成 21 年 8 月 10~11 日

１．研修の内容

- 基調講演「大学教員の職能開発と FD」立命館大学教授　安岡　高志氏
　講演では、まず文科省の学士課程教育の構築に向けた 3 つの方針、学位の授与、学修の評価、教育内容・方法等、高等学校との接続、を確認した。その目標達成の考え方としてマネジメントの世界ではおなじみの PDCA サイクルを回すことが指摘された。文科省令を基に単位制度の意図するところが確認された。1 単位の授業科目を取得するのに標準で 45 時間の学修が必要であることが確認された。さらに、シラバスに書くべきこととして次の 3 つが指摘された。学生が学習しなければならない義務、学生がどのような努力をすればどのような評価が得られるか、評価の基準として期末試験が 1/3 以上のウェイトを占めてはいけないこと。
自己点検・評価のあり方として、目的達成の手段であって、認証評価機関から承認を得ることが目的ではないことが確認された。改革の前には目標設定が不可欠であり、目標達成の必要条件として、組織的ビジョンが描けており、日々の努力で達成できるものであることが指摘された。
　学生に身につけるべき 3 つの目標が指摘された。第一目標は社会人としての知的発達の推進(科学的知見に基づく分析力)、第二目標は社会で活用できるスキルの習得(リーダーシップの取り方、コミュニケーション能力、文章力、躾)、第三目標は科目の理解、必要なスキルの習得、である。これらを教示するだけでなく学生の身につけさせることまでが教員の仕事であることが強調された。

- 問題提起「参加者の共通理解形成の一助として」圓月　勝博氏
　FD の目的は大学教員の育成である。その教員努力の方向性は、学生の満足度向上から学力向上へ向かわせるべきである。

- グループ討議
　「おもしろい授業、つまらない授業」について各グループに分かれて、ブレーンストーミングでアイデアを出し合い次のようにまとめた。おもしろい授業には、身近な問題、現在の問題が取り上げられ、ステップを踏んだ(飛躍のない)論理展開で「オチ」がある。さらに、映像利用や具体例や体験談が織り交ぜられ、双方向型で学生個々人が把握され、また教室全体を教員がコントロールしているものである。一方、つまらない授業は、教員が棒読みであったり、教員が自分の世界に入って学生を顧みなかったり、内容と方法の両方にメリハリがなかったり、教員が学生を先入観で決めつけたり、レッテルをはったりすることである。

- 模擬授業
　15 分間の模擬授業を行った。その感想として「もっと学生の方を見て話すこと」や当たり前と思われる「経済用語も丁寧に」教えていく必要性を他の先生からご指摘いただいた。

２．研修の成果

研修を受けることで次のことを意識するようになった。

・　会計用語以外の経済の基本的な用語の説明をしっかりする。
・　学生をもっと見る。
・　「オチ」をつける。
・　具体例をあげる。
・　新聞記事を取り入れる。
・　後から見てわかるような板書の書き方、PP の作り方を工夫する。
・　同僚の評価を受ける大切さ。
・　授業準備の大切さ
・　教養科目との関連を意識する。
・　学科ないし学部で学生の人材像を共有することの大切さ。
・　自分の科目と他の先生の科目とのつながりを確認することの大切さ。

３．授業への研修成果の反映状況

・　具体例をできるだけ準備するようになった。
・　PP の見やすさを工夫するようになった。
・　会計用語のみならず経済の基本的な用語の説明をするようになった。
・　コミュニケーションカードを利用し、学生の疑問を聞きだし、次の授業で応えるようにした。
・　学生が毎回の授業をどれだけ理解しているかを確認するために、毎授業課題をやってもらい評価に取り入れている。
・　毎回の課題の評価は学生に示すようにすることで、学生の意欲が高まっているように感じている。

以上。

学 部 長	ＦＤ委員長	ＦＤ委員会	企画・広報課長	係